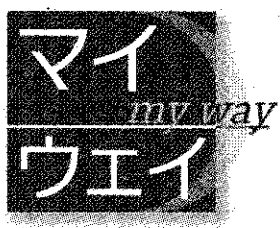


# 「表」と「裏」

先回の理屈っぽい文章と、カトリック教会の聖職者のユニホームであるスータンを着ている、真面目そうな私の写真はザンクト・アウクスティンで勉強した時の一面を確かに伝えているが、この「表」の一面にはちょっとした「裏」があ



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 16

る。2000年の歴史を辿る。2000年の歴史を辿って来たカトリック教会は、60年代の学園紛争、もつと各時代にその時期の特有な課題に直面してきた。私が入会した1967年には主

## 日本の学生に感じるギャップ



友達と議論

つは1965年に終了したカン公会議であった。両方に二つの動きが教会に変化をもたらし、私にも大きな

刷新を求めるきっかけとなった。自己紹介で「私は60年代の学園紛争の学生です」というフレーズをよく使う。授業で学生にも話している。私が夜の挨拶でも「お

ても仕方がないだろうか。しかし、哲学・神学を勉強していた時に芽生えた授業に対する批判的な態度は今でも残っている。同級生と組んで、ある先

早つごいいます」といっつは、捨かれた性格の現れではない。これこそ、従来の社会情勢に対する反抗の精神を燃やしていた学生時代の想いを今も持ち続けていることこの証です、と言いた

たことも多々あった。このような生意気な言動をする者を、若者「馬鹿者」と評価すべきかは別として、こうした時代を経て大

学の時であった。かつて私が感激した60年代の代表的ミユシカル作品「ヘアー」のビデオを鑑賞した時、ゼミ生の半分以上は途中眠ってしまった。つまりない授業

曲がりではないかと言われ

学の時であった。かつて私が感激した60年代の代表的ミユシカル作品「ヘアー」のビデオを鑑賞した時、ゼミ生の半分以上は途中眠ってしまった。つまりない授業

衛策かもしれないが、このジュネレーションギャップにはやはり少しショックを受けたのである。